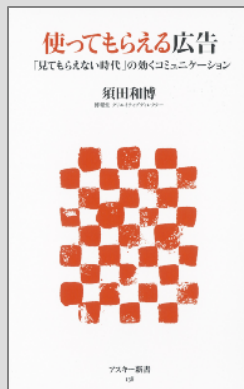


使ってもらえる広告

「見てもらえない」時代の効くコミュニケーション



著者：須田和博
 刊行：2010年1月
 出版社：アスキー・メディアワークス（アスキー新書）
 定価：本体743円＋税

<目次>

はじめに 見てもらえないのなら、使ってもらえないじゃん！
 第1章 広告なんて、もういらない!?
 第2章 コミュニケーションはいま、こんなにデジタル
 第3章 いまどきのユーザー（人びと）に接するには？
 第4章 「見てもらえる広告」から「使ってもらえる広告」へ
 第5章 ユーザーに愛される五つの極意
 第6章 未来はルーツの中にある
 おわりに やっぱユーザーが一番エライ！

デジタル化の進展によって、メディアの構造は大きく変化しています。ブログやSNS（ソーシャルネットワークサービス）の発達など、いまや生活者は、関心のある情報を自ら集め、必要な情報を選別し、さらには発信する、というように、自分を取り巻く情報を自らの意思でデザインするようになりつつあります（「生活者主導社会」）。

裏を返せば、生活者にとって自分に必要がなさそうな情報は、スルーされてしまう時代。この時代に、「広告」はどのように生活者＝ユーザーと向き合えばよいのだろうか？

いっそのこと、広告が、ユーザーの生活にホントに役立つことをやってみればよいのではないかな？

生活の奥深くに入り込み、生活者とのキズナをつくる、サービスとしての広告。本書では、そんな「使ってもらえる広告」を提案します。

グラフィック、テレビCMなどマス広告制作のキャリアを長く積み、ウェブ広告制作のフィールドへと移ってきた著者が、自ら手がけた仕事の現場で体感している「広告のいま」を、分かりやすく解説します。

【著者プロフィール】

須田和博（すだ・かずひろ）
 博報堂エンゲージメントビジネス局 クリエイティブディレクター
 1967年新潟県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒。
 アートディレクター、CMプランナーを経てインタラクティブ広告の領域へ。紙、テレビ、ウェブなど、あらゆるメディアを使いこなすクリエイティブディレクターとしてコンテンツやサービスを企画制作。ACC賞、TCC新人賞、モバイル広告大賞、東京インタラクティブ・アド・アワードグランプリ、カンヌ国際広告祭銅賞など受賞多数。アジア太平洋広告祭審査員（2009年）。